資料２－１

千葉市水環境・生物多様性保全計画の全体構成図

本計画が目指す「基本理念」と、それを実現するための3つの「取組みの柱」や施策の方向性を記載した計画書の構成を図示すると、次のような関係になっています。

基本理念

水の環（わ）はぐくむ　にぎわい輝く生命（いのち）のつながりを　子どもたちの未来へ

第1章　策定の趣旨

本市は、「千葉市水環境保全計画」を策定し、河川や海域、地下水の保全・再生を総合的に推進してきました。

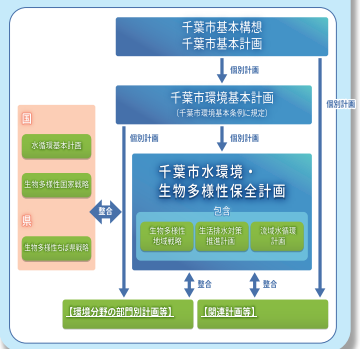
一方、近年では、生物多様性の損失が進んでおり、喫緊の課題となっています。

本計画は、社会情勢や本市の特性等を鑑み、水環境及び水循環の健全化、生物多様性の保全に資することを目的として策定し、様々な取組みを推進していきます。

目標、施策の具体化

第2章　計画の基本的事項

1. 対象区域　2. 計画期間
3. 位置付け　（2023年度～2032年度）



施策の推進

第3章　現状と評価

1. 千葉市の概況
2. 水環境や生物多様性に関する現状
3. これまでの取組みと評価
4. アンケート・ワークショップ

課題の解決

第4章　施策の展開

＜　＞内の数値は 2032 年度の目標値。

取組みの柱 1. 水環境の保全活用

（1）水環境・水循環の理解の促進
- 水環境・水循環の普及啓発
- 学びの場の充実
- 学校教育等との連携

【指標】水環境や水循環について理解している市民の割合＜100%＞

（2）豊かな水辺（河川、海岸、湧水地など）の保全・創出
- 多自然川づくりの推進
- 水辺の保全
- 水辺とのふれあい
- 良好な景観維持

【指標】多自然護岸整備河川等の延長（累計）＜17, 449m（2029 年度）＞

（3）きれいな水（水質）の保全
- 汚濁負荷の抑制
- 河川の浄化
- 海域の浄化
- 地下水の保全

【指標】水質環境目標値（生活環境項目）達成率＜100%＞

（4）水資源の持続可能な利用
- 地下水の適正な利用
- かん養機能の確保
- 水源かん養域の保全・再生

【指標】単年度沈下量2cm未満の地点数の割合＜100%＞

（5）地域の水辺とふれあう機会の創出
- 水辺にふれあう機会の提供
- 親しみある川辺の充実
- 親しみある海辺の充実

【指標】自然観察会等の参加者数・開催数（累計）＜2,450 人、140 回＞

取組みの柱 2. 生物多様性の保全再生

（1）生物多様性・生態系の理解の促進
- 生物多様性・生態系の普及啓発
- 学びの場の充実
- 学校教育等との連携

【指標】生物多様性について理解している市民の割合＜100%＞

（2）豊かな緑（水源林、谷津田など）の保全・創出
- 谷津田の自然の保全
- 緑の保全・創出
- 公共施設や開発行為等における緑化等の推進

【指標】谷津田の保全協定締結面積＜80.17ha＞

（3）貴重な動植物の保護及び外来生物対策
- 貴重な動植物の保護及びそれらの生息・生育環境の保全・再生
- 外来生物対策
- 有害鳥獣対策

【指標】貴重な生物（ﾊｲｲｹﾎﾞﾀﾙ、ｺﾎﾞｱｶﾞｴﾙ）の生息数＜増加＞
【指標】特定外来生物（哺乳類）の防除数（累計）＜2,350 頭＞

（4）生物多様性がもたらす資源の持続可能な利用
- 生物多様性を守るための行動の普及
- 谷津田等の自然体験の場としての利用
- 木育の推進

【指標】家庭系食品ロス量＜2,900t（8.3g/ 人・日）＞

（5）地域の自然とふれあう機会の創出
- 地域の自然にふれあう機会の提供
- 谷津田の自然の維持管理
- 親しみある地域の自然の充実

【指標】自然観察会等の参加者数・開催数（累計）＜2,450 人、140 回＞

取組みの柱 3 は、取組みの柱　1、2それぞれの施策の実現を支えます。

取組みの柱 3. 計画の推進体制の整備

（1）人材の確保・育成
- 担い手となる人材の確保
- 担い手となる人材の育成
- 環境教育・環境学習の推進

【指標】ボランティア育成講座の受講者数・開催数（累計）＜1,200人、60回＞

（2）ボランティア等の活動支援
- 活動自体への支援
- PR 面での支援

【指標】地域環境保全自主活動事業補助金の交付団体数（累計）＜30 団体＞

（3）市と市民等によるモニタリング体制の整備
- 市民やボランティアとの連携
- モニタリングや調査研究データの収集・分析

【指標】貴重な生物（ﾊｲｲｹﾎﾞﾀﾙ、ｺﾎﾞｱｶﾞｴﾙ等）のモニタリング地点数＜14地点＞

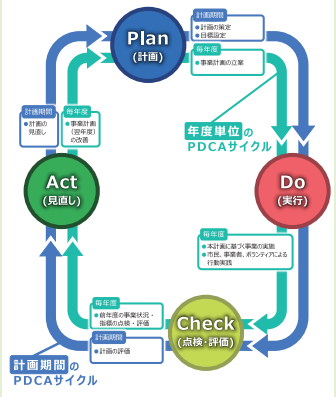
自然体験教室

ホタル調査

第5章 計画を進めていくために

計画の推進のため、「市民」、「事業者」、「ボランティア」及び「市」のあらゆるステークホルダーと連携しつつ、国、県、近隣自治体とも理解と協力を得ながら計画を推進します。

計画の進行管理にあたっては、前述した全ての主体と連携しつつ、PDCAサイクルの手法に基づき、計画の点検・評価や、見直し、改善を図ります。



資料編

1. 市民アンケート調査結果
2. 水質・水量調査結果
3. 生き物調査結果
4. 環境基準・水質目標値・レッドリスト
5. 策定の経緯
6. 他計画との関連
7. 用語集
8. 委員名簿
9. 協力機関、協力者